

OP
—
風

微

風

吹

動

力タツムリのリズムで

おもいかえしてまよつて
おなじみちいつたりきたり
心の奥まさぐれば
ありふれたショッピングブルー
わけは問わないでリズムと波長

(1)階堂和美「ショッピングブルー」より)

工藤量導

第38回

連載

ここしばらく時差ボケを経験していない。身体的にはしんどいので何も好き好んでなりたいものではないけれど、とどのつまり海外旅行に出かけられていいくことだから、心情的にはどこか寂しさと懐かしさもある。

時差ボケ対策といえば、太陽の光を浴びるタイミングをやりくりして睡眠と覚醒の時間を現地に同調させてゆく方法が定番だろう。時差ボケはジェット機による高速移動に私たちの体内時計がついていけないことから生じた現象で、船など移動に時間がかかっていた時代には感じられなかつたようだ。ともあれ、ズレが生じた体内時計を調整して元に戻さなければならないわけだが、それというのも私たちが一日を24時間とするリズムを記憶しているからこそだ。

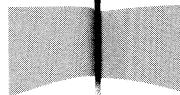
生物にそなわった固有の周期性はサークルアンドリズムと呼ばれ、人間だけではなく、動物や植物さらには単細胞生物のなかにもあり、いずれも後天的に学習した外因性のものという。近年、ショウジョウバエを用いた実験によつて、生物時計の振り子役の正体はタンパク質であり、その周期的な増減を繰り返すワンサイクルが24時間であると判明している。生物時計をもとに、多くの動植物が日照時間を測つて季節の移り変わりを知り、渡り鳥やミツバチなどは太陽の位置と日付から飛ぶ方角を計算するというから驚きの精密さである。

いざれにせよ、24時間という単位が地球の自転周期に由来することは明白だ

る法則的な繰り返しについて讃美している場面が少なくない。

たとえば、極楽浄土では一日に6回、4時間ごとに空から花が舞い落ちてきて、色とりどりの調和をたもちつつ一面に敷き詰められるという。極楽で過ごす一日一夜が、インドで最長の時間的単位とされる一劫と等しいとする説もあり、このうえなく贅沢な時間が延々と繰り返されてゆく。大地は八面八角の宝幢がハニカム構造のようにスクラムを組んで支えており、宝の樹々は列をなし整然と並び、葉の縦横は均等の長さで絶妙に重なり合い、枝も互いに同じ形状をとり、花々は同じ向きに咲きそろい、果実も等しい位置にみのる、など枚挙にいとまがない。渡航先の出迎え態勢、リズムの安定感は万全である。

ひるがえつて念佛往生という交通手段は、指をパチンと弾く間に完了する驚異的な瞬間移動だが、はたしてつらい時差ボケに見舞われたりしないだろうか。大丈夫。時差ボケの解消は、やさしい月の光を浴びながら今は遠き地上のリズムと向き合う調整作業なのだ。同じ道を行つたり来たり、迷いと正解を繰り返しながら、ありふれた日々を過ごした娑婆世界での生活リズムが今なお刻み込まれている。あとは現地にゆつたりと流れるコントラバスのように穏やかで、どこか懐かしい、永しえの時間に身をゆだねれば、カタツムリが歩むスピードで少しづつ、でも確実に、善きことがまつすぐ動いてゆく。心の奥をまさぐつてみれば、わけなど問わずとも、すべてはリズムと波長が教えてくれるのだ。



くどう りょうどう 1980年青森県今別町生まれ。青森教区本覚寺副住職。博士（仏教学）。浄土宗総合研究所研究員、大正大学非常勤講師、淑徳大学兼任講師。専門は中国浄土教、著書に『迦才「浄土論」と中国浄土教—凡夫化土往生説の思想形成』（法藏館、2013年）など。

ろうし、他にも太陽の日照時間や月の満ち引きも関わつてくるので、言うならば地上の生物は天体のリズムと波長を合わせて生きていることになるのだ。かつてマハトマ・ガンジーは「善きことはカタツムリの速度で動く」との名言を残した。多くの人がこの言葉に感銘を受けるのは、「変化は善」「速ければ速いほど善い」という価値観が現代社会のあり様にもとづいて押しつけられた拙速さに過ぎず、むしろカタツムリのスローな生き方こそ生物本来のリズムであると直感し、そこにあこがれと安らぎを見出すからではないだろうか。カタツムリも人間も同じ生物時計を持つて生きていると思うとなおのことだ。

柳澤桂子『リズムの生物学』では、生命現象に発生する時間的なリズムだけでなく、空間的なリズムというアイデアを取り入れて次のように述べている。
私は宇宙の中の時間的・空間的な繰り返し現象について考えていくうちに、私たちが生きていく上で安心感が、繰り返し現象の予測の上に成り立っているのではないかと考えるようになった（中略）細胞の繰り返し、遺伝子の繰り返し、塩基の繰り返し—そして、最終的には素粒子の繰り返しが「私」という個体をつくっている。（中略）リズムとは、生物にとつてそれほど根源的な現象であるということであろう。

著者は他にも文化・音楽・文学のリズム、そして宗教的な詩歌のリズムにも言及しているが、なるほど仏典の描写を思い返してみると、時間・空間に関する